

< 研究成果の紹介 >

ロックウール栽培における安定多収のためのスプレーバラの品種選定と管理法

1. 成果の内容

近年、花きの消費拡大を図るため、家庭消費向けカジュアルフラワーの生産振興が求められています。

そこで、バラ生産において消費が伸びているスプレーバラに注目し、ホームユース向きの多収性品種の選定を行い、仕立て、養液管理法について検討を行いました。

(1) 有望7品種を栽培比較した結果、フルール(ピンク)、ピンクチャーム(ピンク)、ユリウス(鮮赤)がホームユース向き(切り花長50cm程度)を前提とした多収生産に適していました。

(2) 仕立て法については、フルール、ユリウスでは、折り曲げ整枝による株元からのシュート切り採花法(アーチング仕立て法)が、ピンクチャームではシュート切り採花法に冬期切り上げ採花を併用する採花法が多収栽培に適していました。

(3) スプレーバラにおける多収を目的とした養液管理は、従来の大輪系バラ栽培と同様に、夏期EC1.0、春・秋期EC2.0、冬期EC2.0を目安とした標準養液管理が適当です。

2. 技術の適用効果と適用範囲

多収性品種が明らかとなり、導入品種決定時の資料として活用できます。

シュート切り採花法はロックウール栽培施設での導入が比較的容易です。

3. 普及・利用上の留意点

従来の大輪系バラに比較して、スプレーバラは病虫害の発生が比較的少ないので防除等省力管理が図られる一方、収量増によって収穫、調製労力が増大します。

(栽培担当 内山達也)

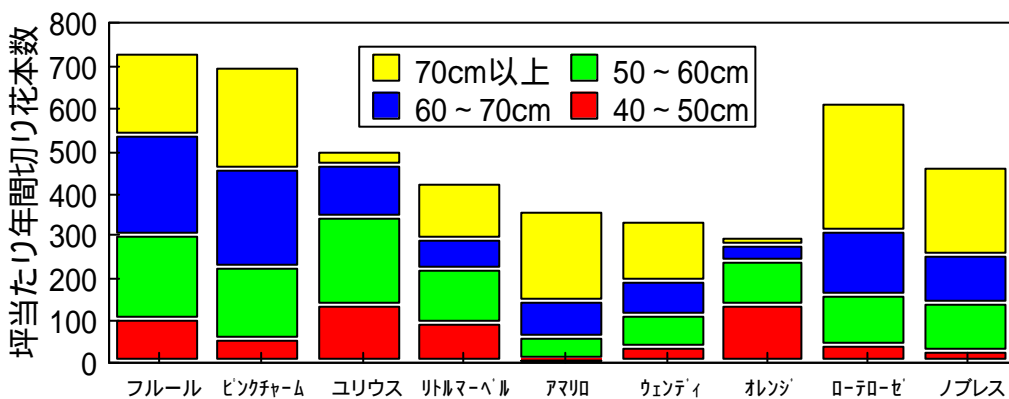


図1. シュート切り採花法における年間切り花本数(本/坪 坪当たり24株)



写真 消費が伸びているスプレーバラ

